

# 統計学

第 117 号

---

## 『統計学』創刊60周年記念論文

### 特集A：標本設計情報とマイクロデータ解析の実際

サンプルセレクションバイアス補正方法の比較検証  
社会生活基本調査マイクロデータを利用して

..... 栗原由紀子 (1)

## 研究論文

未婚者の交際状況

若年パネル調査 (JLPS-Y) データを用いた二項ロジット分析

..... 平井 太規 (17)

## 資料

フランス INSEE における管理職員の養成と各省統計部局への配属

..... 西村 善博 (33)

## 追悼

岩井浩先生と労働力・失業・不安定就業研究

..... 村上 雅俊 (41)

## 本会記事

経済統計学会第63回 (2019年度) 全国研究大会・会員総会 ..... (48)

『統計学』投稿規程 ..... (60)

---

2019年9月

経済統計学会

## 創刊のことば

社会科学の研究と社会的実践における統計の役割が大きくなるにしたがって、統計にかんする問題は一段と複雑になってきた。ところが統計学の現状は、その解決にかならずしも十分であるとはいえない。われわれは統計理論を社会科学の基礎のうえにおくことによって、この課題にこたえることができると考える。このためには、われわれの研究に社会諸科学の成果をとりいれ、さらに統計の実際と密接に結びつけることが必要であろう。

このような考えから、われわれは、一昨年来経済統計研究会をつくり、共同研究を進めてきた。そしてこれを一層発展させるために本誌を発刊する。

本誌は、会員の研究成果とともに、研究に必要な内外統計関係の資料を収めるが同時に会員の討論と研究の場である。われわれは、統計関係者および広く社会科学研究者の理解と協力をえて、本誌をさらによりよいものとするを望むものである。

1955年4月

## 経済統計研究会

### 経済統計学会会則

第1条 本会は経済統計学会（JSES：Japan Society of Economic Statistics）という。

第2条 本会の目的は次のとおりである。

1. 社会科学に基礎をおいた統計理論の研究
2. 統計の批判的研究
3. すべての国々の統計学界との交流
4. 共同研究体制の確立

第3条 本会は第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会の開催
2. 機関誌『統計学』の発刊
3. 講習会の開催、講師の派遣、パンフレットの発行等、統計知識の普及に関する事業
4. 学会賞の授与
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第4条 本会は第2条に掲げる目的に賛成した以下の会員をもって構成する。

- (1) 正会員
- (2) 院生会員
- (3) 団体会員
- 2 入会に際しては正会員2名の紹介を必要とし、理事会の承認を得なければならない。
- 3 会員は別に定める会費を納入しなければならない。

第5条 本会の会員は機関誌『統計学』等の配布を受け、本会が開催する研究大会等の学術会合に参加することができる。

- 2 前項にかかわらず、別に定める会員資格停止者については、それを適応しない。

第6条 本会に、理事若干名をおく。

- 2 理事から組織される理事会は、本会の運営にかかわる事項を審議・決定する。
- 3 全国会計を担当する全国会計担当理事1名をおく。
- 4 渉外を担当する渉外担当理事1名をおく。

第7条 本会に、本会を代表する会長1名をおく。

- 2 本会に、常任理事若干名をおく。
- 3 本会に、常任理事を代表する常任理事長を1名おく。
- 4 本会に、全国会計監査1名をおく。

第8条 本会に次の委員会をおく。各委員会に関する規程は別に定める。

1. 編集委員会
2. 全国プログラム委員会
3. 学会賞選考委員会
4. ホームページ管理運営委員会
5. 選挙管理委員会

第9条 本会は毎年研究大会および会員総会を開く。

第10条 本会の運営にかかわる重要事項の決定は、会員総会の承認を得なければならない。

第11条 本会の会計年度の起算日は、毎年4月1日とする。

- 2 機関誌の発行等に関する全国会計については、理事会が、全国会計監査の監査を受けて会員総会に報告し、その承認を受ける。

第12条 本会会則の改正、変更および財産の処分は、理事会の審議を経て会員総会の承認を受けなければならない。

付 則 1. 本会は、北海道、東北・関東、関西、九州に支部をおく。

2. 本会に研究部会を設置することができる。
3. 本会の事務所を東京都文京区音羽1-6-9（株音羽リスマチックにおく。

1953年10月9日（2016年9月12日一部改正[最新]）

【本会記事】

# 経済統計学会第63回(2019年度)全国研究大会・会員総会

常任理事会

## I. 第63回全国研究大会

2019年9月6日(金)、7日(土)の2日間、東北学院大学において全国研究大会と会員総会が開催された。また、研究大会終了後の9月7日(土)午後に統計チュートリアルセミナーが東北学院大学地域共生推進機構との共催で開催された。なお、研究報告会には78名の参加があった。

## II. 研究大会プログラム

期間：2019年9月6日(金)～9月7日(土)

研究大会 9月6日(金)9:00～18:00

9月7日(土)9:30～15:30

会員総会 9月6日(金)15:10～16:00

懇親会 9月6日(金)18:40～20:40

理事会 9月5日(木)15:00～17:00

統計チュートリアルセミナー

9月7日(土)13:00～15:30

会場：東北学院大学土樋キャンパス

経済統計学会東北・関東支部 経済統計学会第63回(2019年度)全国研究大会実行委員会 委員長 東北学院大学経済学部 前田 修也
--

### 9月6日(金)

8:30 受付開始(ホーイ記念館3階ロビー)

9:00 開会

9:00～12:00 セッションA：企画セッション(ミクロ統計研究部会企画)

ホーイ記念館3階H301教室

### 地域分析のためのミクロデータ・小地域統計の利用

コーディネータ：伊藤伸介(中央大学)

座長：坂田幸繁(中央大学)

1. 西内亜紀((公財)統計情報研究開発センター)\*・新井郁子((公財)統計情報研究開発センター)・草薙信照(大阪経済大学)

関西国際空港が周辺地域に与えた影響

—地域メッシュ統計による人口、産業と地価の分析—

2. 小西 純((公財)統計情報研究開発センター)

東京圏における年齢別単身世帯と職業別就業者の地域別相関係数

3. 伊藤伸介(中央大学)\*・出島敬久(上智大学)・村田磨理子((公財)統計情報研究開発セン

ター)

地域特性から見た世帯類型と消費構造に関する計量分析

4. 大井達雄(和歌山大学)

社会生活基本調査を使用した観光行動の地域分析

5. 芦谷恒憲(兵庫県企画県民部)

兵庫県及び県内地域別観光消費額及び関連指標の推計と利用上の課題

討論者 林田 実(北九州市立大学), 菅 幹雄(法政大学)

(注) \*印は報告者(以下同様)

9:00~12:00 セッションB:企画セッション

ホーイ記念館3階H308教室

国民経済計算に関する諸問題

コーディネータ・座長:櫻本 健(立教大学)

1. 鈴木俊光(内閣府経済社会総合研究所)

わが国における家計可処分所得・家計貯蓄率四半期速報の位置付けとその特徴

2. 赤木 芽(千葉商科大学)

経済センサス個票データを用いた産業別生産物算出表(V表)の推計

3. 山岸圭輔(内閣府経済社会総合研究所)

供給・使用表の推計における品目別商業マージンの把握に向けて  
—価格情報を活用したガソリンの商業マージン推計の検討—

4. 櫻本 健(立教大学)

2030年代に日本版インボイス制度によってSNAを改良できる技術的余地

5. 萩野 覚(福山大学)\*・金 志映(岡山大学)

供給使用表に組み入れるべき企業の異質性

6. 泉 弘志(関西支部)\*・戴 艶娟(広東外語外貿大学)・李 潔(埼玉大学)

国際産業連関表による中・日・韓・米の生産性水準および生産性上昇率の国際比較

9:00~11:30 セッションC:企画セッション

ホーイ記念館3階H306教室

統計史を考える

コーディネータ:小林良行(総務省統計研究研修所)

座長:山口幸三(総務省統計研究研修所)

1. 上藤一郎(静岡大学)

A. Queteletの確率論と統計学

2. 藤井輝明(大阪市立大学)

江戸時代末期の日本通貨の価値について

3. 森 博美(東北・関東支部)

第1回国勢調査が記録した社会移動

4. 山口幸三(総務省統計研究研修所)

戦前と戦後における標本抽出

5. 小林良行(総務省統計研究研修所)

製表事務の変遷と統計機械—消えた統計実務用語—

12:00～13:00 昼休み

13:00～15:00 セッションD：一般報告

ホーイ記念館3階H301教室

**公的統計の作成に関する現状と課題**

座長：小林良行（総務省統計研究研修所）

1. 佐野夏樹（総務省統計研究研修所）  
モデルの判別精度によるグローバルリコーディングの有用性評価
2. 高橋将宜（鹿児島国際大学）  
クックの距離とトリム平均値による頑健な比率代入法
3. 坂下信之（総務省統計研究研修所）  
統計調査の欠測値補完方法に関する基本的文献と諸外国の動向について
4. 西村善博（大分大学）  
フランスINSEEにおける均衡抽出法の利用

13:00～15:00 セッションE：企画セッション（労働統計研究部会企画）

ホーイ記念館3階H308教室

**賃金・生活の諸問題と統計**

コーディネータ：村上雅俊（阪南大学）

座長：福島利夫（東北・関東支部）

1. 村上雅俊（阪南大学）  
賃金に注目したワーキングプアの推計
2. 藤岡光夫（東北・関東支部）  
貧困と低賃金構造の統計的パターン分析
3. 松丸和夫（中央大学）  
35年をむかえたSOEPの可能性—社会階層構成研究の視点から—
4. 小野寺剛（環太平洋大学）  
非正規雇用形態の雇用創出効果と賃金損失効果に関する考察

13:00～15:00 セッションF：企画セッション（ジェンダー統計研究部会企画）

ホーイ記念館3階H306教室

**男女共同参画社会に向けた統計の在り方**

コーディネータ：杉橋やよい（専修大学）

座長：池田 伸（立命館大学）

1. 栗原由紀子（立命館大学）  
地域・季節性に関する生活時間分析
  2. 橋本美由紀（高崎経済大学非常勤講師）  
単身世帯の介護状況と生活時間
  3. 杉橋やよい（専修大学）  
日本とEU諸国との男女間賃金格差の比較
- 討論者 伊藤陽一（東北・関東支部）

15:10～16:00 会員総会

ホーイ記念館3階H301教室

16:15～18:00 セッションG：共通論題セッション（学会本部企画）

ホーイ記念館3階H301教室

日本の公的統計のガバナンスをめぐって

—公的統計の信頼性を回復・維持・発展させるために—

コーディネータ：上藤一郎（静岡大学）・伊藤伸介（中央大学）

座長：上藤一郎（静岡大学）

1. 伊藤陽一（東北・関東支部）

統計専門家の倫理の国際的展開—特に合衆国を素材にして—

2. 森 博美（東北・関東支部）

統計行政法規としての統計法と公的統計

討論者 金子治平（神戸大学）

質疑

18:40～20:40 懇親会

レストラン「MEINA(メーナ)」

**9月7日(土)**

9:30～12:00 セッションH：企画セッション

ホーイ記念館3階H301教室

人口減少社会における諸課題と地方統計の利活用

コーディネータ：菊地 進（立教学院）

座長：御園謙吉（阪南大学）

1. 菊地 進（立教学院）

地方自治体における中小企業振興と事業所調査

2. 御園謙吉（阪南大学）

経済センサス活動調査にみる東北「復興」—宮城県を中心に—

3. 上藤一郎（静岡大学）

人口移動と合計特殊出生率—静岡県市町別データによる分析の試み—

4. 長谷川普一（新潟市都市政策部GISセンター）

国勢調査パネルデータから見た居住形態別人口動態

5. 丸山洋平（札幌市立大学）

人口移動が親との同居率の地域差に与える影響の検討

9:30～11:30 セッションI：企画セッション

ホーイ記念館3階H308教室

指数の作成に関する諸課題

コーディネータ・座長：鈴木雄大（北海学園大学）

1. 鈴木雄大（北海学園大学）

品目特性別指数を考慮した実質賃金指数の動向と地域差の検証

2. 松下真紀（総務省統計局）\*・武井 大（総務省統計局）

2020年基準消費者物価指数(CPI)における「葬儀料」の採用について

3. 櫻井智章(総務省統計局)\*・高井健作(総務省統計局)・深尾豊史((独)統計センター),  
武藤杏里((独)統計センター)

消費動向指数(CTI)の作成への民間企業データ活用に関する検討

4. 塩谷匡介(日本銀行調査統計局)  
企業向けサービス価格指数の2015年基準改定について

9:30~12:00 セッションJ:一般報告  
マイクロデータの提供と利用

ホーイ記念館3階H306教室

座長:伊藤伸介(中央大学)

1. 白川清美(一橋大学,(独)統計センター)  
カンボジアマイクロ統計データベースの提供とそのデータを利用した分析
2. 野崎政志((独)統計センター統計データ利活用センター)\*・堤 亮二((独)統計センター統計データ利活用センター)・森川仁美((独)統計センター統計データ利活用センター)  
マイクロデータの利活用推進に向けた統計データ利活用センターの取組み
3. 白川清美((独)統計センター)  
統計センターが提供するマイクロデータ利用サービスについて
4. 宮川幸三(立正大学)  
流通形態の変化と商業活動の統計的把握—商業統計マイクロデータを用いた分析—
5. 坂田幸繁(中央大学)  
2次利用におけるモデル推定と抽出ウェイト

9:30~12:00 セッションK:一般報告  
経済統計をめぐる諸問題

ホーイ記念館3階H307教室

座長:飯塚信夫(神奈川大学)

1. 飯塚信夫(神奈川大学)  
労働分配率は低下しているのか—税務データを用いた検証—
2. 小巻泰之(大阪経済大学)  
EBPMにおける経済統計の適用と課題
3. 李 善珠(筑波大学大学院)\*・川島宏一(筑波大学), 有田智一(筑波大学)  
教育部門の公的統計と各種調査において行政記録情報を活かす方案に関する研究
4. 荒川貴典(立命館大学大学院)\*・長澤克重(立命館大学)・池田 伸(立命館大学)  
商業統計に関する現代的課題—小売業態, 商業集積, オンライン化—
5. 佐野一雄(福井県立大学)  
経済統計学をどう教えるか?—経済学理論からのアプローチ—

**9月7日(土)**

13:00~15:30

会場:東北学院大学土樋キャンパス ホーイ記念館3階H301教室

主催:経済統計学会, 東北学院大学地域共生推進機構

公開シンポジウム（無料）

宮城県における震災復興の現状と今後の課題  
—地域コミュニティ形成支援を中心に—

12：00 受付 司会 菊地 進（経済統計学会）

13：00 開会挨拶 阿部重樹（東北学院大学地域共生推進機構長，同大学経済学部教授）

<報告>

13：10 「宮城県における被災者支援の現状とコミュニティ形成支援」  
中村憲昭（宮城復興局被災者支援・原子力災害復興班参事官）

13：30 「石巻市における地域コミュニティの形成と協働のまちづくり」  
三浦 晃（石巻市復興政策部地域協働課課長補佐）

13：50 「南三陸町における被災者支援と地域コミュニティの形成」  
及川 貢（南三陸町保健福祉課係長）

休憩

14：30～15：30

<パネルディスカッション>

テーマ 地域コミュニティの再構築に向けた諸施策

ファシリテーター 本間照雄（東北学院大学地域共生推進機構）

パネラー 中村憲昭（宮城復興局被災者支援・原子力災害復興班参事官）

三浦 晃（石巻市復興政策部地域協働課課長補佐）

及川 貢（南三陸町保健福祉課係長）

15：30 閉会挨拶

経済統計学会第63回（2019年度）全国研究大会プログラム委員会

委員長 伊藤伸介（東北・関東支部）

副委員長 伊藤 純（東北・関東支部）

委員 鈴木雄大（北海道支部） 大井達雄（関西支部）

栗原由紀子（関西支部） 山口秋義（九州支部）



## Ⅲ. 会員総会

9月5日(木)15時よりの理事会審議を経て、2019年度会員総会が9月6日(金)に開催され、下記事項が審議・報告承認された。

## 1. 報告事項

## (1) 入退会及び異動(敬称略)

北海道支部：会員数10名

新入会員(1名)	丸山洋平	札幌市立大学	推薦者：水野谷武志・鈴木雄大
自主退会(1名)	小坂直人		

東北・関東支部：会員数129名(正会員111名・シニア会員2名・院生会員6名・その他会員10名)

新入会員(7名)	阿久津文香	総務省統計局	推薦者：森 博美・小林良行
	藤井英明	総務省政策統括官付	推薦者：櫻本 健・菊地 進
	赤木 芽	千葉商科大学	推薦者：櫻本 健・倉田知秋
	李 善珠	筑波大学大学院	推薦者：上藤一郎・伊藤伸介
	貫名貴洋	国士舘大学	推薦者：上藤一郎・伊藤伸介
	小俣 惇		推薦者：倉田知秋・藤井英明
	武田英俊	日本銀行	推薦者：荻野 覚・宇都宮浄人
転入会員(1名)	山口幸三	京都大学大学院→総務省統計研究 研修所	関西支部→東北・関東支部
転出会員(4名)	金 志映	(独)日本貿易振興機構アジア経済 研究所→岡山大学	東北・関東支部→関西支部
	塩谷昌史	東北大学→大阪市立大学	東北・関東支部→関西支部
	小巻泰之	日本大学→大阪経済大学	東北・関東支部→関西支部
	高橋将宜	東京工業大学→鹿児島経済大学	東北・関東支部→九州支部
所属変更(6名)	坂田大輔	総務省政策統括官付→神奈川大学	
	小林良行	総務省統計研究研修所→(独)統計 センター	
	佐藤正広	一橋大学→東京外国語大学	
	白川清美	一橋大学→(独)統計センター	
	杉橋やよい	金沢大学→専修大学	
	安部穂日	(独)統計センター→総合研究大学 院大学	
自主退会(1名)	尾関 学		
死亡退会(1名)	喜多克己		

関西支部：会員数88名（正会員74名・シニア会員11名・院生会員2名・その他会員1名）

新入会員（1名）	平井太規		推薦者：白川清美・水野谷武志
転入会員（3名）	塩谷昌史	東北大学→大阪市立大学	東北・関東支部→関西支部
	小巻泰之	日本大学→大阪経済大学	東北・関東支部→関西支部
	金 志映	(独)日本貿易振興機構アジア経済研究所→岡山大学	東北・関東支部→関西支部
転出会員（1名）	山口幸三	京都大学→総務省統計研究研修所	関西支部→東北・関東支部
所属変更（2名）	野崎道哉	岐阜経済大学→岐阜協立大学	
	岩本菜々	大阪市立大学大学院→兵庫県立大学	
自主退会（1名）	山田正明		
死亡退会（1名）	吉信 肅		
除 籍（1名）	谷口昭彦		

九州支部：会員数12名

転入会員（1名）	高橋将宜	東京工業大学→鹿児島経済大学	東北・関東支部→九州支部
自主退会（1名）	金丸 哲		

(2) 2020年度全国研究大会の開催について

2020年度研究大会は関西支部が担当し、神戸大学において開催予定であることが報告された。なお、開催日は未定であったが、その後、開催校、開催担当支部、常任理事会の協議を経て、9月13～14日とすることを理事会に報告した。

(3) 機関誌『統計学』編集状況と投稿の呼びかけ

機関誌『統計学』の編集状況について池田伸編集委員会委員長より現状報告があり、併せて会員へ積極的な投稿の呼びかけが行なわれた。

(4) 学会名簿管理について

坂田幸繁常任理事（事務局機能見直し担当）より、学会名簿の管理体制について報告があった。

(5) 学会賞について

2019年度の経済統計学会賞について、西村善博委員長より高橋将宜会員の受賞が報告され、表彰式が行われた。

2. 報告承認事項

(1) 2021年度全国研究大会開催支部について

2021年度研究大会は北海道支部による開催とすることが承認された。

(2) 2020年度全国プログラム委員会委員長、副委員長、委員（2019年9月～2020年9月）の選

出

以下の会員が選出され承認された。なお委員については後日選出され理事会で報告された。

委員長：村上雅俊（阪南大学）

副委員長：小川雅弘（大阪経済大学）

委員：鈴木雄大（北海学園大学），水野谷武志（北海学園大学），伊藤伸介（中央大学），  
尹 清洙（長崎県立大学）

(3) 2018年度全国会計報告・会計監査報告

小野寺剛会員の会計監査を受けた2018年度全国会計決算について栗原由紀子全国会計担当理事より報告が行われ、了承された（本記事末尾の【資料1】の決算書参照）。

(4) 2019年度会計中間報告

栗原由紀子全国会計担当理事より2019年度全国会計予算の執行状況について報告があり承認された。

(5) 2019年度全国会計予算案

栗原由紀子全国会計担当理事より2020年度全国会計予算案の報告を受け、了承された（本記事末尾の【資料2】の予算書参照）。

(6) 2017年度支部活動交付金収支報告

栗原由紀子全国会計担当理事より支部活動交付金収支報告を受け、了承された。

(7) 全国会計の選出

全国会計担当に栗原由紀子会員（立命館大学）の再任が承認された（任期：2019年9月～2021年9月会員総会）。

(8) 全国会計監査の選出

全国会計監査に小野寺剛会員（環太平洋大学）の再任が承認された（任期：2019年9月～2021年9月会員総会）。

(9) 編集委員長、および委員（2020年度）の選出について

本年内に常任理事長のもと可及的速やかに次年度委員会構成を理事会に提案することが承認された。

〔参考〕 2019年度編集委員会（任期：2019年4月から2020年3月まで）

東日本ブロック 小林良行（現副委員長，次期委員長），水野谷武志，山田 満

西日本ブロック 池田 伸（現委員長），松川太一郎

(10) 学会賞選考委員会委員について

学会賞選考委員会については、役職上の委員である金子治平学会員（会長）と上藤一郎会員（常任理事長）を除き、委員長も含めて後日理事会に提案することが承認された。なお委員長に

については、総会終了後、「学会賞・学会賞選考委員会規定」に基づき、会長の指名で西村善博会員が再任されることとなり、理事会に報告された。

(11) 理事選挙の選挙管理委員の選出について

委員選出に関わる前回の承認事項を考慮して、11月末までに常任理事長のもと可及的速やかに選挙管理委員の候補者を理事会に提案することが承認された。なお、理事定数については、「理事選出選挙の管理に関する申し合わせ」で、常任理事会が選挙実施年度の6月末日現在の支部会員数に基づき算定することとなっており、次期理事候補の定数を次のようにすることが承認された。

北海道支部2名、東北・関東支部8名、関西支部6名、九州支部2名

(12) 記念事業検討WGの設置について

学会創立70周年・機関誌『統計学』創刊70周年を想定した記念事業検討WGの設置を提案し承認された。なお、記念事業WGの構成員については、本年度中に常任理事長のもと可及的速やかに理事会に報告することが承認された。

(13) 学会法人化に関する必要性和今後の検討

1. 学会法人化の必要性

常任理事長より、学会法人化についての現段階での調査結果(会計処理の問題を中心に)が報告された。また今後の検討課題として、法人化に係わる費用負担や人的負担などの見直し、学会運営の改革や規定・申し合わせの見直しなどが報告された。このため、次の点について今後1年間の調査・検討の継続が提案され、了承された。

- ①全国会計、支部会計の現状把握
- ②法人化した場合の会計シミュレーション
- ③その他法人化する場合に学会側で対応が必要となる事項の検討(資料の保管体制、組織面での対応、定款の準備、会則の変更など)
- ④人的負担の精査→本学会と同規模程度の学会で法人化した学会へのヒアリング

## 【資料1】

## 経済統計学会 2018年度決算

(2018年4月1日～2019年3月31日)

収 入	予算	決算	差額	支 出	予算	決算	差額
前期繰越	3,925,147	4,041,784	116,637	1. 誌代	1,200,000	685,214	-514,786
1. 会費収入	1,912,000	1,870,000	-42,000	(1)『統計学』114号(通常分)	600,000	274,167	-325,833
(1)誌代・編集費	1,151,200	1,118,800	-32,400	(2)『統計学』115号(通常分)	600,000	411,047	-188,953
・北海道支部	48,000	48,000	0	2. 本部事業費	934,000	589,069	-344,931
・東北・関東支部	632,400	614,800	-17,600	(1)事務委託費	20,000	20,000	0
・関西支部	414,400	399,600	-14,800	(2)ニューズレター発行費 (第51号, 第52号, 第53号分)	150,000	139,141	-10,859
・九州支部	56,400	56,400	0	(3)研究大会関連経費	300,000	200,000	-100,000
(2)本部経費	660,800	641,200	-19,600	・大会準備金	200,000	200,000	
・北海道支部	28,000	28,000	0	・プログラム印刷・発送費	100,000	0	
・東北・関東支部	355,600	347,200	-8,400	(4)通信・交通費	200,000	75,250	-124,750
・関西支部	243,600	232,400	-11,200	・学会封筒代		22,680	
・九州支部	33,600	33,600	0	・通信費		5,810	
(3)団体会員会費	100,000	110,000	10,000	・旅費補助		46,760	
2. 繰入金	200,000	41,669	-158,331	(5)名簿作成費	70,000	55,027	-14,973
・大会準備金の償還	200,000	41,669	-158,331	(6)HP関係経費	94,000	94,594	594
3. 雑収入	500	4,045	3,545	・レンタルサーバー・ドメイン代	10,000	10,594	
・受取利子	500	45	-455	・HP維持管理費	84,000	84,000	
・『統計学』115号非会員掲載料	0	4,000	4,000	(7)その他の事業費	100,000	5,057	-94,943
4. 60周年記念事業	2,008,028	2,008,028	0	・理事選挙関係経費	30,000	0	
・60周年記念事業積立金 (前期繰越)	2,008,028	2,008,028	0	・学会賞審査関連経費	0	3,638	
				・その他	70,000	1,419	
				3. 支部活動交付金	306,800	297,700	-9,100
				・北海道支部	13,000	13,000	0
				・東北・関東支部	165,100	161,200	-3,900
				・関西支部	113,100	107,900	-5,200
				・九州支部	15,600	15,600	0
				4. 60周年記念事業	2,008,028	2,008,028	0
				・『統計学』記念特集分発行経費	400,000	0	-400,000
				・記念特集編集経費	200,000	100,000	-100,000
				・60周年記念事業積立金(次期繰越)	1,408,028	1,908,028	500,000
				5. 予備費	200,000	0	-200,000
				次期繰越	3,396,847	4,385,515	988,668
収入合計	8,045,675	7,965,526	-80,149	支出合計	8,045,675	7,965,526	-80,149

2019年3月31日時点の資産  
総合口座 6,292,912  
振替口座 0  
現金 631  
合計 6,293,543

上記, 相違ありません。

2019年9月2日 経済統計学会 全国会計 栗原由紀子 印

2018年度経済統計学会全国会計の会計監査にあたり, 収入支出に伴う関係書類及び関係証票, 預金通帳等を慎重に審査した結果, いずれも正確かつ適正であることを認めます。

2019年9月2日 経済統計学会 会計監査 小野寺剛 印

## 【資料2】

## 経済統計学会 2020年度予算

(2020年4月1日～2021年3月31日)

収 入	2019予算	2020予算	差額	支 出	2019予算	2020予算	差額
前期繰越 <sup>1)</sup>	4,267,923	6,107,696	1,839,773	1. 誌代	1,200,000	1,200,000	0
<b>1. 会費収入</b>	<b>1,886,000</b>	<b>1,930,000</b>	<b>44,000</b>	(1)『統計学』116号(通常分)	600,000		
(1)誌代・編集費	1,129,200	1,156,400	27,200	(2)『統計学』117号(通常分)	600,000		
・北海道支部	48,000	46,000	-2,000	(3)『統計学』118号(通常分)		600,000	
・東北・関東支部	625,200	624,400	-800	(4)『統計学』119号(通常分)		600,000	
・関西支部	399,600	429,600	30,000	<b>2. 本部事業費</b>	<b>1,034,000</b>	<b>1,034,000</b>	<b>0</b>
・九州支部	56,400	56,400	0	(1)事務委託費	20,000	20,000	0
(2)本部経費	646,800	663,600	16,800	(2)ニューズレター発行費	150,000	150,000	0
・北海道支部	28,000	28,000	0	(3)研究大会関連経費	300,000	300,000	0
・東北・関東支部	352,800	355,600	2,800	・大会準備金	200,000	200,000	
・関西支部	232,400	246,400	14,000	・プログラム印刷・発送費	100,000	100,000	
・九州支部	33,600	33,600	0	(4)通信・交通費	200,000	200,000	0
(3)団体会員会費	110,000	110,000	0	(5)名簿作成費	70,000	70,000	0
<b>2. 繰入金</b>	<b>0</b>	<b>200,000</b>	<b>200,000</b>	(6)HP関係経費	94,000	94,000	0
・大会準備金の償還	0	200,000	200,000	・レンタルサーバー・ドメイン代	10,000	10,000	
<b>3. 雑収入</b>	<b>500</b>	<b>500</b>	<b>0</b>	・ホームページ維持管理費	84,000	84,000	
・受取利子	500	500	0	(7)その他の事業費	200,000	200,000	0
<b>4. 60周年記念事業</b>	<b>1,908,028</b>	<b>0</b>	<b>-1,908,028</b>	・学会法人化に向けた調査等経費	100,000	100,000	
・60周年記念事業積立金 (前期繰越)	1,908,028	0	-1,908,028	・その他	100,000	100,000	
				<b>3. 支部活動交付金</b>	<b>300,300</b>	<b>308,100</b>	<b>7,800</b>
				・北海道支部	13,000	13,000	0
				・東北・関東支部	163,800	165,100	1,300
				・関西支部	107,900	114,400	6,500
				・九州支部	15,600	15,600	0
				<b>4. 60周年記念事業</b>	<b>1,908,028</b>	<b>0</b>	<b>-1,908,028</b>
				・『統計学』記念特集発行経費	200,000	0	-200,000
				・記念特集編集経費	100,000	0	-100,000
				・60周年記念事業積立金 (次期繰越)	1,608,028	0	-1,608,028
				<b>5. 予備費</b>	<b>200,000</b>	<b>200,000</b>	<b>0</b>
				次期繰越	3,420,123	5,496,096	2,075,973
<b>収入合計</b>	<b>8,062,451</b>	<b>8,238,196</b>	<b>175,745</b>	<b>支出合計</b>	<b>8,062,451</b>	<b>8,238,196</b>	<b>175,745</b>

注1) 2019年度で60周年記念事業終了のため、2020年度前期繰越には、2019年8月31日時点の繰越額5,211,668円に、2019年度予算の60周年記念事業積立金(次期繰越)1,608,028を計上したうえで、2019年度予算の『統計学』117号発行経費600,000円・NL56号発行経費50,000円・事務委託費20,000円・HP維持管理費42,000円を引いた6,107,696円を計上した。

## 執筆者紹介

栗原由紀子 (立命館大学経済学部) 平井太規 (神戸学院大学現代社会学部)  
西村善博 (大分大学経済学部) 村上雅俊 (阪南大学経済学部)

### 支部名

### 事務局

北海道	062-8605	札幌市豊平区旭町 4-1-40 北海学園大学経済学部 (011-841-1161)	水野谷武志
東北・関東	192-0393	八王子市東中野 742-1 中央大学経済学部 (042-674-3406)	伊藤伸介
関西	640-8510	和歌山市栄谷 930 和歌山大学観光学部 (073-457-8557)	大井達雄
九州	870-1192	大分市大字且野原 700 大分大学経済学部 (097-554-7706)	西村善博

## 『統計学』編集委員

委員長 池田 伸 (関西, 立命館大学)  
副委員長 小林良行 (東北・関東, 総務省統計研究研修所)  
委員 水野谷武志 (北海道, 北海学園大学), 山田 満 (東北・関東),  
松川太一郎 (九州, 鹿児島大学)

## 『統計学』60周年記念事業委員会

委員長 大井達雄 (和歌山大学)  
副委員長 水野谷武志 (北海学園大学)  
委員 池田 伸 (立命館大学), 伊藤伸介 (中央大学),  
杉橋やよい (専修大学), 村上雅俊 (阪南大学),  
金子治平 (会長, 神戸大学), 上藤一郎 (常任理事長, 静岡大学)

### 統計学 No.117

2019年9月30日 発行	発行所	経済統計学会 〒112-0013 東京都文京区音羽1-6-9 音羽リスマチック株式会社 TEL/FAX 03 (3945) 3227 E-mail: office@jsest.jp http://www.jsest.jp/
	発行人	代表者 金子治平
	発売所	音羽リスマチック株式会社 〒112-0013 東京都文京区音羽1-6-9 TEL/FAX 03 (3945) 3227 E-mail: otorisu@jupiter.ocn.ne.jp 代表者 遠藤 誠

# Statistics

---

No. 117

2019 September

---

## Special Section: The 60th Anniversary of the Journal

### Special Topic A: Problems in Microdata Analysis of Official Statistics Based on Probability Sampling Designs

Verification of the Adjustment Methods for Sample Selection Bias Using Microdata of the Survey on Time Use and Leisure Activities

..... Yukiko KURIHARA (1)

## Articles

Logistic Regression Analysis on Intimation of the Unmarried:  
Using the JLPS-Y Data

..... Taiki HIRAI (17)

## Materials

Training of Managerial Officials and their Assignment to the Statistics Departments of the Ministries in INSEE of France

..... Yoshihiro NISHIMURA (33)

## Obituary

Professor Hiroshi Iwai and His Pioneering Statistical Study on Labor Force,  
Unemployment and Unstable Employment

..... Masatoshi MURAKAMI (41)

## JSES Activities

The 63<sup>rd</sup> Session of the JSES ..... (48)

Prospects for the Contribution to *Statistics* ..... (60)

---

Japan Society of Economic Statistics

---